

Frente

三重県男女共同参画センター
フレンテみえ
フレンテとはスペイン語で
「前向き」という意味です。

vol.59
2014.10

「働くことは生きる証」

Report!

輝く女性応援会議 in 三重
企業を成長に導く職場づくりセミナー

NEW 不定期連載インタビュー

フレンティが聞く! みえのひとびと
朝日新聞津総局 畑 宗太郎さん

エッセイ

レディオキューブFM三重
西本亜裕子 アナウンサー
「はぴはぴエッセイ」

もうすぐ開催!

今年は2日間!

男女共同参画フォーラム

くみえの男女^{ひと}2014



もうすぐ開催!

男女共同参画フォーラム ～みえの男女2014～

11月8日
(土)

「企業を変える 社会が変わる ～女性活躍促進プロジェクトのススメ～」

最近、よく「女性の活躍促進を」という声があちこちから聞こえてきますが、まだまだ企業等の女性管理職割合は高いとはいえ、どのように進めていけばよいかという声があげられています。そこで今回は企業の経営層や管理職等の男女を対象に、長時間労働などの従来の働き方の見直し、そもそも女性の活躍促進はなぜ必要なのか、その取組により企業にとってどのようなメリットがあるのか、どのように女性の活躍を促していけばよいのか等、企業ができること、自分にできることは何かを共に考えます。皆さまのご参加をぜひお待ちしております!

基調講演

「女性はもっと活躍できる!

13:10～14:00

～より企業を元気に、男女とも人生を豊かに～

講師: 岩田 喜美枝さん (公益財団法人21世紀職業財団会長、前(株)資生堂代表取締役・副社長)

プロフィール

1971年東京大学教養学部卒、1971年労働省入省。厚生労働省雇用均等・児童家庭局長を最後に03年退官。03年株式会社資生堂に入社、08年代表取締役副社長に就任。12年7月から顧問、12年3月からキリンホールディングス株式会社社外監査役。12年7月から日本航空株式会社社外取締役、12年7月から公益財団法人21世紀職業財団会長。現在の公職としては男女共同参画会議、中央教育審議会生涯学習分科会、消費者委員会等。



パネルディスカッション

14:10～15:20

コーディネーター 岩田 喜美枝さん

パネリスト



松浦 慶子さん

万協製薬株式会社
専務取締役

1992年結婚と同時に入社。1965年5月25日生まれ。奈良県出身、三重県多気郡多気町在住。1988年4月薬剤師免許取得。大学生、高校生、中学生3人の子どもの母親。現在、多気町議会議員。



宮路 元美さん

井村屋グループ株式会社
総務・人事部長代理

1978年入社。1987年、1988年に女兒出産。出産後総務部に配属、産後休暇後より復職。2007年に開所した企業内託児所の立上メンバー。2011年より3年間三重看護協会のワーク・ライフ・バランス推進ワークショップ事業運営委員。



西本 亜裕子さん

レディオキューブFM三重
アナウンサー

1977年生まれ、37歳。奈良県出身、三重県津市在住。2003年入社、2児のママ。2度の産休を経て、開局以来初の産休取得ママアナウンサーに。「はびはび子育て」(金10:00～)担当。現在、三重県少子化対策推進県民会議委員。

働く女性の交流会 ～明日のキャリアを築くために～

コーディネーターとパネリストを囲んでの、働く女性限定の交流会です。

他の女性管理職の方はどのように工夫して仕事をこなし、キャリアを重ねているの?

管理職を目指したいけれど、どのように家庭と仕事を両立していけばよいの…?

そんなあなたの悩みを解決するヒントを探ります。おいしいお茶とお菓子を食べながら、

働く女性のネットワークを広げてみませんか?

■時間: 15:40～16:30

■場所: 三重県総合文化センター内
「RIZ CAFE(リズ・カフェ)」

■参加費: 800円(お茶・お菓子付)

■対象: 企業や団体で働いている女性

女性が活躍して開発した 商品の紹介、販売

- お茶女子会(四日市)お茶とお茶農家手作りのお菓子の販売
- 鳥羽で活躍する女性たちが開発した、海藻等「海」由来成分配合の鳥羽オリジナルボディジェル(11月1日発売)

11月9日
(日)

「上司が変わると企業が変わる！」

～イクボス?ダメボス? 今、求められる上司になるためのヒント～

近年、企業のワーク・ライフ・バランス、ダイバーシティ(詳しくは内面のフレンテメモへ)などの取組が注目を集めています。それはなぜなのか?これから必ずやってくる少子高齢化による労働力人口の減少、その上に出産や育児、急増している介護を理由に離職する人が増えたら…。働き手がいなくなるかもしれない現実、もうまったなしの緊急の課題なのです。そんな課題を克服するために「男女ともに働きやすい職場づくり」を実現すべく必要となるのは、経営層や管理職といった上司の意識変革と理解です。

そこで2日目は、「イクボス」をテーマに、多様な人材をマネジメントできる「ボス(上司)」とはどんな人なのか、また「ボス(上司)」の育成が、企業の生産性向上、利益拡大にどのようにつながるのかを考えます。

基調講演

「イクボス?ダメボス?

13:05 ~ 14:05

今、求められる上司になるためのヒント

講師: ^{つねお}佐々木 常夫さん ((株)佐々木常夫マネジメント・リサーチ代表取締役)

プロフィール

自閉症の長男とうつ病の妻を持つ。肝臓病をも患う妻は20年の間に43回もの入院、3回の自殺未遂を起こす。育児、家事、介護に追いかける状況の中で、破綻会社の再建やさまざまな事業改革に取り組む。2001年、同期のトップで取締役就任、2003年東レ経営研究所社長。その著書「ビッグツリー」が反響を呼ぶ。2011年ビジネス書最優秀著者賞を受賞。

略歴

1944年 秋田市生まれ
1969年 東京大学経済学部卒 東レ株式会社入社
2001年 取締役・経営企画室長
2003年 株式会社東レ経営研究所社長
2010年 株式会社東レ経営研究所特別顧問
現在 株式会社佐々木常夫マネ-ジメント・リサーチ 代表



パネルディスカッション

14:10 ~ 15:40

佐々木 常夫さんはパネリストとしてもご参加いただきます。

コーディネーター



^{なおき}渥美 由喜さん

内閣府少子化危機突破タスクフォース政策推進チームリーダー
(株式会社東レ経営研究所研究部長)

プライベートでは2児の父親であり、2回育児休業を取得、4年前から父親の介護も実践中。仕事や育児、介護に奮闘するほか、18年前から地元の公園で継続してきた「こども会」のボランティア活動をライフワークにしている。座右の銘は、「市民の三面性=家庭人、地域人、職業人。」

パネリスト



^{こうそ ときこ}高祖 常子さん

NPO法人ファザーリング・ジャパン理事
マザーリングプロジェクトリーダー

子育て支援を中心に編集・執筆・講演を続けながら、子ども虐待防止と、笑っているパパを増やすべくNPO活動も行う。育児情報誌「miku」編集長、WEBサイト「こそだて」編集長。3児の母。編著は「ママの仕事復帰のために パパも会社も知っておきたい46のアイデア」(労働調査会)、「新しいパパの教科書」(学研)、「パパ1年生」(かんき出版)ほか。

「女性の大活躍推進三重県会議」キックオフ大会

15:50 ~ 16:50

午前中ももりだくさん! ワークショップ 10:00 ~ 12:00

① 育児・介護と仕事の両立を目指す男性へ 自分流ワークライフバランスを考える

講師:内閣府少子化危機突破タスクフォース政策推進チームリーダー 渥美 由喜さん (主催:三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」)

② 育休復帰後の職場対応・支援のための人事・管理職向けワークショップ

産休・育休復帰…多様な働き方の中でチーム力を上げるイクボスとは

講師:NPO法人ファザーリング・ジャパン理事 マザーリングプロジェクトリーダー 高祖 常子さん (主催:三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」)

③ ^{ハタチ}20になったフレンテみえ 進んでいますか。あなたのまわりの202030 (主催:フレンテみえ企画・運営サポーター)

三重県内市町の男女共同参画の取り組み状況展示や、男女共同参画パネル等さまざまな展示を行います。

「三重の女性史研究会のあゆみ」 主催:三重の女性史研究会

「三重労働局雇用均等室からのご案内」 主催:三重労働局雇用均等室

「地域における意思決定の場への女性の参画 ~実践 三重の加速プラン~」 主催:男女共同参画みえネット

2日間
パネル展も
開催

Report!
8/19(火)

今、女性が輝きます!

輝く女性応援会議 in 三重

様々な分野で活躍する“輝く女性”を応援しようと、内閣官房、内閣府、三重県の主催で、8月19日(火)「フレンテみえ」多目的ホールで、『輝く女性応援会議 in 三重』が開催されました。

基調
講演

『女性が輝く社会を目指して』

森 まさこ 女性活力・子育て支援担当大臣兼内閣府特命担当大臣 (男女共同参画)

女性が輝く社会を目指して、安倍政権が行っている政策とその成果、そして次に目指す具体的施策についてお話いただきました。

現在日本では、結婚・出産を機に約6割の女性が仕事を辞めており、その中で“働きたいけど働けない”女性は315万人と言われているそうです。こうした女性の活躍を進めることは単に労働力の確保というだけでなく、高い教育を受けてきた優秀な人材である日本の女性に力を発揮してもらうことでもあります。すでに政府が取り組んだ施策の成果として、女性の役員・管理職登用率(6.9%から7.5%)や子育て期の女性就業率(68%から69.5%)、育児休業給付の増加(休業開始前賃金の50%から67%に引き上げ)などがあげられます。今後に向けての具体的施策として、学童保育など育児・家事支援環境の拡充、新たな法的枠組みなど、女性登用を促進するための環境整備を進めていくことが閣議決定されています。

大臣も2人の子育てをしながら働くワーキングウーマン。これからの日本にどれだけ女性の力が必要か、明るく力強く語られました。



パネルディスカッション

コーディネーター … 鈴木 英敬 三重県知事

パネリスト …… 森 まさこ 大臣
宮本 ともみさん(元サッカー日本女子代表・サッカー解説者)
永井 佳恵さん((株)百五銀行上野支店緑ヶ丘出張所長)
浅田 剛夫さん(三重県経営者協会副会長(井村屋グループ(株)代表取締役会長兼CEO))
西岡 慶子さん((株)光機械製作所 代表取締役社長)
佐藤 美保子さん(NPO法人愛ママズIT倶楽部 代表理事)

パネルディスカッションは、鈴木英敬知事のコーディネートで、5名のパネリストに森大臣も加わって、女性がより輝くには何が必要かについて意見が交わされました。

キーワードとしてあげられたのは「一歩踏み出す勇気」と「周囲のサポート」。元サッカー日本女子代表の宮本さんは、「復帰へ一歩踏み出したのは、家族のサポートがあったから」とお話しになりました。企業や社会が女性の「一歩踏み出す勇気」をどうサポートするかについて、在宅制度や短時間勤務、また産休・育休後職場に戻りやすくするために、休暇中の在宅勤務や育休中にスキルを落とさない教育システムの確立などの意見が出されました。

パネルディスカッション終了後、森大臣を交え、『三重県輝く女性応援宣言』を行い、鈴木知事、パネリストの皆さんで、それぞれの立場で輝く女性たちを応援していくと宣言されました。





新企画 不定期連載

フレンティが聞く!

み え の ひ と び と



『男女共同参画』って特別なものだと思っていませんか?そうではなくてみなさん知らず知らず実践していたり触れていたたりするものなのです。「実は身近なものなんだ」とみなさんに気づいてほしい「フレンティみえ」のフレンティが動き出しました!三重県に住む、三重県で働くひとびとにインタビュー、その人の『男女共同参画』を見つけ出します!

記念すべき1回目は、朝日新聞津総局 畑 宗太郎 記者にインタビュー!!



フレンティ 畑さんは新聞記者ですが、普段はどんなお仕事をされているんですか。

畑さん 僕の場合は、三重県警や県庁の記者クラブで聞いた発表をもとに、実際に現場に出かけて取材して記事を書きます。

フレンティ よくこの三重県総合文化センターにも来てくれますよね。それはどうして?

畑さん 新人記者はみんなやりますが、署回りというのがありまして、いくつかの警察署を毎日回って話題がないか探すんです。そういう感覚で「記事ないですか?」とお邪魔しています、総文さんはネタの宝庫なので(笑)。いろいろな場所へお邪魔することで、多くの方と知り合うことができます。いざというときに取材対象を紹介してもらえ人脈を大切にしています。

フレンティ お仕事のタイムスケジュールは?

畑さん 取材対象者には昼夜問わず会いに行きますし、記事はほとんど夜書きます。夜遅いので普通のお仕事よりは朝はゆっくりかもしれません(笑) ずっとデスクに座っている仕事とは違うので、待ち時間が長かったりしますが、そういうときは電話取材したり記事を書いたり、本を読んだりしています。時間の使い方がうまくなると仕事ができると言われるます。新聞記者は世の中で起こっていることなんでも知っておいた方が良いので、本を読むことも映画やテレビを見ることもなんでも無駄なことはありません。時間を上手に使うことを考えています。

フレンティ 記者さんって忙しいイメージがあるのだけど、お休みは?

畑さん シフト勤務で週休2日制です。想像されるよりお休みをもらっていると思います。ただ取材したい対象があるとお休みでも行っちゃいますね。三重県にいる間に三重県のことを知りたいという気持ちもあります。

フレンティ お休みや待ち時間に知識の吸収をして、それを仕事に還元する。まさにワーク・ライフ・バランスじゃないですか! 長期休みも取れるんですか?

畑さん 取れますよ。ただ大きい事件とかあると消えますけど(笑)。休みも担当の仕事によって不平等にならないよう、上司が調整してくれます。また、ちゃんとお休みを取るようにと会社も言ってくれますし。



フレンティ ここで少し話を変えて、仕事やプライベートで見た“男女共同参画”をききたいんですけど。

畑さん そうですね、僕はフレンティの取り組みは注目していて、男性の家事講座や避難所の講座、離婚講座とか、話を聞いていくと、女性の問題、男性の問題、避難所の問題と結局全部つながっていて、ユニバーサルというか、突き詰めていくと弱者や困難を抱えた人の立場に立って考えることにつながると感じています。性別とかいろいろな問題を乗り越えていくところに惹かれます。簡単に言うと優しい社会でしょうか。記者になってからは、名古屋での事件を担当してから児童虐待に注目しています。生活の不安定さが要因なのか、最初から子どもが憎いわけではないと思うのですが…ここが男女共同参画の出発点かもしれないですね。DVもそうですよね。

僕自身の母親は家庭に入って社会とつながりが持てない時期があり、そんな母を見てきたので男女共同参画は自然に感じていたのかもしれません。

フレンティ そういえばスリランカに行かれたとか。

畑さん とてもいいところでした。スリランカではそれぞれがいろいろな宗教を信仰していて多様性を感じました。現地の人とお話ししたり、結婚式にも遭遇しました。スリランカでも日本と同様、新郎の家に新婦がお嫁に入る、という感覚のようです。僕はファーストバイトをはじめ、結婚式はジェンダー意識が表れる最たるものだと思っています。僕が結婚式をやるとしたら、新婦が先に入場して僕が母親と入っていく…それをやってくれる人と結婚したいです(笑)。

フレンティ 畑さん、おもしろい!是非やってください!今日はいろいろお話を聞かせていただきありがとうございました。

畑さん こちらこそありがとうございました。

お楽しみいただけましたか?私生活(ライフ)が仕事(ワーク)と循環している、これぞ無理のないワーク・ライフ・バランスだと感じました。

さあ、次はだれにインタビューしようかな～。ご期待ください!(不定期ですけど…)

※畑さんのもっと詳しいインタビューは、フレンティみえのホームページに掲載中です!

フレンティみえ

検索

7月13日(日) KAJIでスキルUP! 男をアゲる*家事スクール

この講座は、20歳～40歳代の男性を対象に、男性の家事参加のきっかけとなることを目的に家事塾・家事セラピストの南部さんを講師に迎えて開催しました。グループワークや講義・実習を通して家事をより身近なものに感じてもらい、家事との関わり方を考えてもらう機会としました。

講師の「自分の親の介護をすべきときに、自分のことが出来ない人が他人の世話ができますか」という言葉は非常に説得力があり、「家事という身近なことを自分でできる人になってほしい」という思いを伝えることができました。また、準備から片づけまで一連の流れに家事に必要な要素が込められているという、おいしいお茶の入れ方を最後に実習しました。

今回、多くの方から「自分の家事に対する意識を再確認できてよかった」、「家事に対して興味を持つきっかけになった」という感想をいただきました。いきなりすべての家事を行うことは難しいかもしれませんが、一つずつ自分に出来ることをこなしていくことが大切です。この講座を通して、参加者が家事参加をする第一歩となりました。



8月3日(日) M祭!2014 『テクノガールのカガク工房』

三重県総合文化センターでは、毎年夏に子ども向けイベント『M祭!』を行っています。今年度もフレンテみえでは、子どもたちが科学技術の世界で働く女性たち「リケジョ」とふれあう中で、男性が多いと思われる分野でも男女関係なく活躍できることを知ってもらうために、『テクノガールのカガク工房』を三重大学とパールネットみえ(女性研究者連携協議会)の共催で実施しました。

今年は紙を折って作る、くるくる回りながら絵柄が変わる不思議なおもちゃ「カライドサイクル」と葉っぱや木の枝など自然にあるものを使った「自分色のクレヨン」作りを行いました。

「リケジョ」たちと一緒に作業をすることで、あらゆる分野で性別を問わず活躍できるというメッセージを子どもたちに伝えました。



8月24日(日) 平成26年度 地域リーダー養成講座 9月6日(土) だれもが安心な避難所のために ～防災・減災と男女共同参画～ 連続講座(2回) 講師: 浅野幸子さん(減災と男女共同参画 研修推進センター)

地震、土砂災害…。いつ見舞われるかわからない大規模災害で突如「避難生活」が始まったとしても、誰もが安心・安全に過ごすための「男女共同参画の視点での避難所運営」について体験・ワーク・講義で考える連続講座を開催しました。

初回には「避難所運営体験」を実施。参加者は避難者として避難所の立ち上げを疑似体験しました。ほぼ初対面同士でチームをつくり、段ボールを敷いたり非常食を調理し配給したり、実際の被災時をイメージしながら主体的に行動していく様子は、大変貴重な体験となりました。

その後は「地域に活かす避難所ルール」について施設利用方法(ハード)と運営体制(ソフト)の両面から考える講義とワークを実施。要支援者や多様性配慮についても掘り下げ、グループでディスカッションを交えながら考えていきました。

初回が大雨の特別警報で中止となりましたが、参加者からは、「大変充実した内容で参考になった」「事例に基づいた身近な話がよかった」「地域でも取り組んでいきたい」などの感想が寄せられました。



6月 パネル展示『三重のパパイキジ・ママワーク』

フレンテみえでは、6月を男女共同参画強調月間 ff(フォルティッシモ)と位置付けており、この期間中、三重県立図書館で今年度新たに作成した「三重のパパイキジ・ママワーク」のパネル展示を行いました。このパネルは、三重県の現状を中心に、男性・女性の育児や家事への関わり方、働き方についてわかりやすいグラフを使って説明しています。※パネルは、団体・企業・学校へ貸出しています。啓発の一環としてご活用ください。



毎年10月11日は国連「国際ガールズ・デー」

国際ガールズ・デーとは?

世界中の人々が「女の子の権利」を認識し、女の子のエンパワーメント(もともと持っていた力を引き出す)を促進することを目的に、2011年12月に国連総会にて定められました。世界の国々、とりわけ開発途上国では女の子(18才未満)の多くが経済的、文化的な理由により学校に通えず、10代前半での結婚を余儀なくされ、貧困の中で暮ら

しています。そんな女の子たちの未来を大きく変えるためには、適切な教育と支援が必要です。

しかしこの問題、発展途上国だけのものではありません。先進国、日本においても、女の子には様々な社会的制約が存在しているのです。この機会に一度目を向けてみませんか?

(参考:国際ガールズ・デー推進ネットワークより)

はぴはぴエッセイ! Happy×Happy=Essey!

執筆は仕事、育児と多忙な毎日を乗り切る
パワフルなママ・アナウンサー西本亜裕子さん。
3回目となる今回のお話は?

連載
第3回

『仕事も家庭も子育ても、 体力勝負で“はぴはぴ”に!?!』

私は、7月19日生まれで、この夏、37歳になりました。

31歳と32歳の時に、長男、長女を出産しましたが、第1子の時は、妊娠発覚直後に、大量の出血があり、危険な状態がありました。不妊治療の末に授かったため、当時通っていた産婦人科では、「紹介状を書くので、大きい病院に行ってください」と言われ、大学病院では「仕事を選ぶか、身体を選ぶか、自分で決めてください」と言われました。その日は、イベントの司会の仕事があり、自分の判断で仕事を選択しましたが、赤ちゃんがガンバってくれたのか、無事、出産に至り、その子も6歳になりました。一方、第2子の時には、妊娠が発覚する前に、とても体調が悪く、ひどいつわりであることが分かりました。長男は9月生まれなので、臨月の頃に残暑厳しく、長女の妊娠初期の頃は、真夏で、つわりに加えて暑さが辛かったのを覚え

ています。そして、私自身は夏生まれ。自分が、妊娠、出産を経験してからは、自分の誕生日が来る度に、「母も、暑い夏に、私のことを産んでくれたんだな〜」と思うようになりました。

でも、その母が産んでくれたこの身体のお陰で、今、仕事に家庭に子育てにと多忙な生活を乗り切れる丈夫な自分があるので、そういう意味でも、親に本当に感謝しています。

子育てって本当に体力仕事で、授乳中は睡眠不足と戦い、今、6歳と4歳の子どもたちとは、外で身体を動かして遊ぶので、本当にヘトヘトになりますが、この、「身体を動かす」ことは、案外イイコトのようです。今春、阪神タイガース2軍監督の平田勝男さんと一緒にいる機会があり、聞いたお話に、「負けていたり調子が悪いときには、とにかく走らせる。運動には、ネガティブなキブンを発散させたり、身体をリラックスさせる作用がある」とありました。今、結果的に、休みごとに子どもたちとアクティブに過ごしている私ですが、知らないうちに“はぴはぴ”になれる暮らしをしてたようです。もちろん、ムリは禁物ですけどね!



にしもと あゆこ
西本 亜裕子

レディオキューブFM三重アナウンサー。奈良県出身、三重県津市在住。37歳。2児のママ。2度の産休を経て、現在、開局以来初の産休取得ママアナウンサーとして、パワフルに仕事と育児を両立中。三重県少子化対策推進県民会議委員。

趣味は、ゴルフ、食全般(美味しいもの、お酒も大好き)。また、eco検定、フードアナリスト、防災士の資格も取得。

担当番組:『はぴはぴ子育て』(毎週金曜10:00~10:55) プロデューサー、ディレクター、パーソナリティと1人3役をこなしつつ、毎週、生放送でお送りしている子育て情報番組。子育て真っ只中のママならではの現在進行形のエピソードや話題、リスナーママ・パパから届く悩みを共有したり、時にはアドバイスしたりされたり…の参加型番組。大変なこともある子育てだけど、気分は、Happy×Happy(はぴはぴ)でお送りしています!

女性に対する暴力防止セミナー 『それDVです』

今年度は亀山市と共催でセミナーを開催します。講師は米国と日本で、子ども・女性への虐待防止専門職の養成に30年近く携わってこられたエンパワメント・センター主宰の森田ゆりさんです。DVの基礎知識、被害者・加害者への対応、子どもへの影響などロールプレイやワークを通じて分かりやすくお話いただけます。

亀山市の亀山朗読奉仕会による朗読劇『ひまわり〜DVをのりこえて』も上演します。実は身近にあるDVについて、一緒に考えてみませんか。

日時:11月15日(土)13:30~15:30

会場:亀山市総合保健福祉センター 2階 大会議室

講師:森田ゆりさん(エンパワメント・センター主宰)

料金:無料(定員100名)・申込不要

※無料託児あり

対象:生後6か月~小学校低学年

(事前申込制/締切11月7日(金)/先着10名程度)※要約筆記あり



~これからの人生を“生きる”ために~ 定年*男の「スターティング・ノート」 in 四日市

「家族のため」「会社のため」と働いてきたけれど…。さあ、これからどうしよう?『男の鎧』を身にまとい、歯を食いしばって頑張ってきた男性の皆さん、貴方の「第3の人生」を明るくする魔法のノートを作りませんか?

定年を迎える男性の皆さんに、仕事中心の生活から新たな人生を踏み出すためのヒントをプレゼントします。これからの生活を楽しく“生きて”行きましょう。

今年度はフレンテを旅立ち、四日市市での開催です!

日時:12月6日(土)13:00~16:30 受講料:無料

場所:本町プラザ2階 第1会議室 (四日市市)

定員:50~60歳代を中心とした定年世代の男性30名

(先着順/10月7日(火)受付開始)

講師:吉岡俊介さん(シニア産業カウンセラー・キャリアコンサルタント)

※託児あり(無料、0歳6か月から小学校3年生程度、11月22日(土)までに

四日市市男女共同参画センター「はもりあ四日市」に申込)

共催:四日市市男女共同参画センター「はもりあ四日市」(Tel: 059-354-8331)



自分で決める! 私の人生「女性のための離婚講座」

フレンテみえの相談室には、毎年離婚についての相談が最も多く寄せられています。特に法律の知識と経済的な自立は離婚を考える上で大きな課題です。

今年度は昨年同様、午前に「離婚にまつわる法律~調停・養育費・財産分与・年金分割」、午後には「離婚後の生活設計」をそれぞれ女性の弁護士、キャリアカウンセラー・ファイナンシャルプランナーにお話しいただきます。離婚を考えている女性に、基本的な知識を持っていただく講座です。1日を通しての受講も、どちらかだけの受講も可能です。

日時:12月20日(土)

◎午前の部10:00~12:00

「離婚にまつわる法律~調停・養育費・財産分与・年金分割」

講師:女性の弁護士

◎午前の部13:00~15:00

「離婚後の生活設計」

講師:キャリアカウンセラー・ファイナンシャルプランナー

会場:三重県総合文化センター内(参加者にのみお知らせいたします)

料金:無料(定員40名程度/先着順/10/3受付開始)

※託児あり(有料) 対象:0歳~小学3年生程度

(事前申込制/受付期間10/10~12/5/子ども1人につき1,000円)

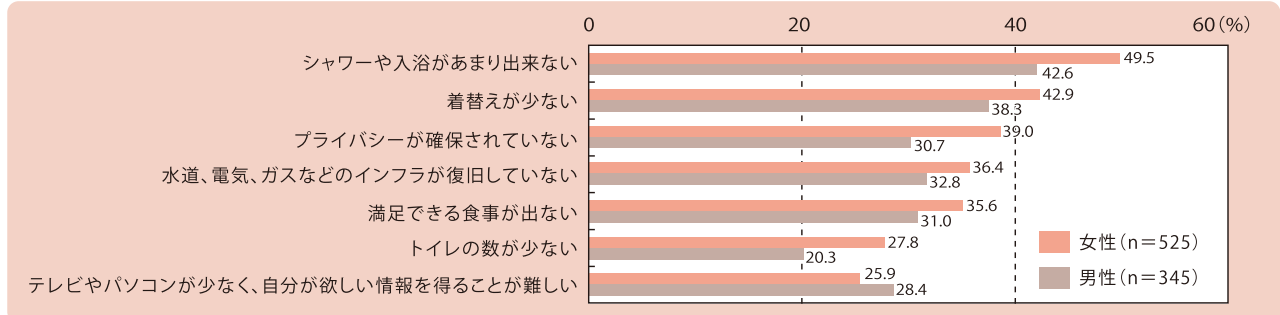
平成25年度
調査研究

『男女共同参画の視点からの避難所活用モデル』を作成しました！

いま、取り組むべきこと ~地域の防災力向上のために~

被災時に受ける“困難”に性別は関係ない

災害直後からの避難所での生活について困っていること(男女別、複数回答) 平成24年版「男女共同参画白書」(内閣府)より

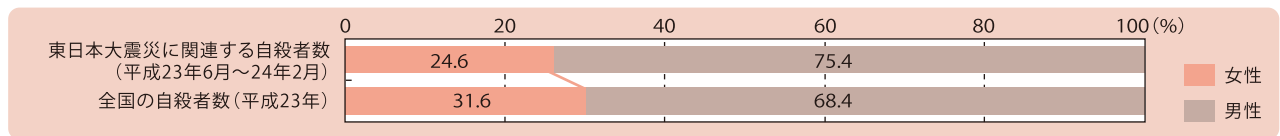


被災時は「男性は仕事、女性は家庭」といった固定的な性別役割分担意識が強化され、それが基となって男女とも様々な困難・ストレスを背負い心身に大きな影響を及ぼすことが指摘されています。「避難所での生活について困っていること」をみると、女性はその環境や女性特有のニーズもあることでより高いストレスを抱える傾向がありますが、数値に差があっても同様のストレスは男性にも抱えられていることが判ります。

男性にもケアが必要

避難所でリーダーの立場になることが多い男性は、「男は強くあるべき」「家族・避難所を守らねば」という強い意識から、自分の感情を抑え辛い気持ちや疲れを溜め込んでしまいがちです。また、がれき処理などの復興活動で肉体的な疲労も重なり、過度な負担の集中から燃え尽き症候群や引きこもり、アルコール依存やうつ病の増加、そして、自殺にまで至ってしまう男性も増える傾向にあります。

東日本大震災に関する自殺者数の男女別割合 平成24年版「男女共同参画白書」(内閣府)より



男性にとっても被災時の困難は同様。女性だけでなく男性も追い詰めることなくだれもが安心・安全な避難生活のためには、男性が抱える困難も皆で理解し、必要があれば男性相談や見守り訪問、地域行事への参加を促すなどで孤立を防ぎ、専門家とも協力しながらメンタルケアに努めていくことも大切です。

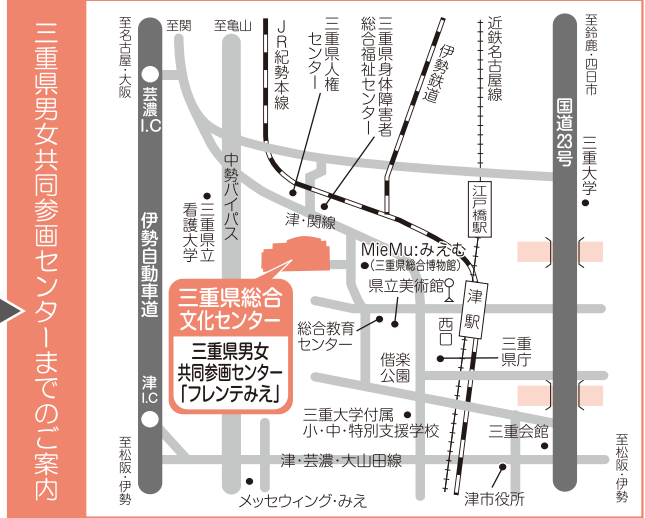
参考:「男女共同参画の視点で取り組む 防災ハンドブック」栃木県・(公財)とちぎ男女共同参画財団、「女性×男性の視点で総合防災力アップ」浅野幸子著(財団法人日本防火協会)、「男女共同参画の視点からの災害発生時における施設職員モデルおよび施設避難所活用モデル」三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」※フレンテみえホームページからダウンロードできます。

フレンテみえ って、なに?

三重県の男女共同参画社会を推進する拠点施設として津市の三重県総合文化センター内に平成6年オープン。情報発信・研修学習・相談・調査研究・参画交流という「5本の柱」で、様々な事業を展開しています。ぜひ皆さま、お気軽にお立ち寄りください！

~詳しい情報はホームページまで~

フレンテみえ **検索**



休館日 毎週月曜日 年末年始 (12月29日から1月3日まで)

交通 ■バス/津駅西口1番のりばから約5分 ■徒歩/津駅西口から約25分 ■自転車/伊勢自動車道芸濃インターから約15分、津インターから約10分 ※駐車場は1400台(無料)。できるだけ公共の交通機関をご利用ください。

発行 三重県総合文化センター
三重県男女共同参画センター フレンテみえ
〒514-0061 三重県津市一身田上津部田1234番地
TEL:059-233-1130 FAX:059-233-1135
URL <http://www3.center-mie.or.jp/center/frente/>
E-mail: frente@center-mie.or.jp

生き方・家族・人間関係・離婚・職場 などなど...
男女がともに自分らしく生きるために、様々な悩みの相談をお受けします

女性のための電話相談 秘密厳守・相談無料

フレンテみえ相談室 **専用ダイヤル 059-233-1133**

相談時間	曜日	月	火	水	木	金	土	日
朝	9:00~12:00	●	●	●	●	●	●	●
昼	13:00~15:30	●	●	●	●	●	●	●
夜	17:00~19:00	●	●	●	●	●	●	●

※祝日の場合「朝・昼」相談あり(翌平日が休館日)

フレンテみえ相談室のご案内
(切り取ってご利用ください)

